

目指す学校像

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 33(R2. 1. 8発行)文責 校長 福田雅也

創造的復興に向けて

「新年 あけましておめでとうございます。
今年も昨年同様、どうぞよろしく願いいたします。」

今年のお正月は天候にも恵まれ、穏やかで明るいお正月となりました。きっと、保護者の方々のご家庭も素晴らしいお正月を過ごされたこととお慶び申し上げます。

そんな穏やかで明るいお正月の元日、熊日新聞の一面トップを飾った見出しは次のようなものでした。

豊肥線 今秋復旧へ 肥後大津～阿蘇 JR九州「全力注ぐ」

明るい気持ちで迎えた元日の朝、この見出しを見た私の心はさらなる明るい希望に包まれました。最近、この見出しのように様々な面で熊本地震からの復興を感じる事が多くなったと感じます。辛い思いをただけに、そのたびに本当にうれしく思います。

三年前のこの時期、熊本地震時に勤務していた学校(高森東小:現高森東学園義務教育学校)で次のような学校便りを書いていました。

この冬休みから、熊本市の自宅との往復は「俵山ルート」が使えるようになりました。単身赴任のために使っている私などより、保護者の方々の方が何倍も開通を切望されていたルートだと思えます。グリーンロードを通るたびに地震の影響が深く、そして未だに続いていることを思い知らされ、冠ヶ岳近くでは標高1000m以上になるアップダウンとカーブの多さに、時間以上の疲れを感じていた私にとっては本当に嬉しい再開でした。

開通後、何度か俵山ルートを通っていると南阿蘇村の道路沿いの二ヶ所に手作りの看板が立っていることに気づきました。その看板にはこう書いてあります。

道路工事をされている皆様へ、24時間ありがとうございます。感謝いたします。

たったの8ヶ月であれだけの道路を作り上げることが並大抵の工事ではなかったことは、素人の私でも想像がつかます。この看板は、その工事に携わっている方々に対する地域の方々の感謝の思いから立てられたのだと思えます。その感謝の思いをしっかりと受け止めながら、工事関係者の方々は昼夜を通した工事を続けられ、12月中の開通にこぎつけることができたのでしょう。

この学校便りの後、長陽大橋ルートが完成し、昨年9月には俵山ルートが完全復旧しました。交通の便は更に改善しましたが、現在まだ工事中で開通を切望されているのが「二重峠トンネル」と「新阿蘇大橋」、そして前述の「豊肥線 肥後大津～阿蘇駅間」です。

元日の新聞記事を読んで、ぜひ自分の目でこれらの工事の進捗状況を見てみたいと思い、休みに二重峠へ足を運びました。JRの工事状況は分かりませんが、大津町からは工事が進んでいる新阿蘇大橋の橋脚を見ることができ、峠からは二重峠トンネルへと続く道路の概観が分かるまでに工事は進んでおりました。計画ではどちらも2020年度中の開通を目指しているとのこと。俵山ルートと同様にどちらも24時間体制の工事が続けられているのだそうです。このように、多くの方々の努力と苦勞で、復興は以前にも増して利便性や安全性が高い創造的なものとして行われています。

復興という面では、私たち高木小職員にできることは多くありません。できるのは、子どもたちとの日々を充実したものにすること、子どもたちの成長や頑張りや町や地域の元気につなげるくらいです。しかし、それらがきっと熊本の創造的な復興の一助にはなっていると確信しながら進んでいきたいと思えます。そんなことを考えたお正月でした。

2020年が熊本の明るい未来へとつながる年になることを心から願っております。